

久野下馬道上遺跡 (第Ⅱ地点)

(小田原市No.17遺跡)

調査期間 20090216～20090315

所在地 相模原市久野

時代
弥生
古墳
奈良・平安
中世



作成日:20090619

概要

本調査は、神奈川県流域下水道整備事務所による、酒匂川流域下水道 箱根・小田原幹線事業に伴う発掘調査です。調査地は周知の埋蔵文化財包蔵地としての小田原市 No.17 遺跡のうち、久野下馬道上遺跡の第Ⅱ地点に該当します。

遺跡は小田原市域の南西部、小田原駅の北方約 1.3km の地点、小田原市立病院の北西側に位置します。付近一帯は現在の山王川(さんのうがわ)右岸にあたり、地形上は旧流路により形成された沖積微高地(ちゅうせきびこうち)、つまり自然堤防(しぜんていぼう)上に立地しています。調査地点で遺跡の存在が確認されているのは、海拔標高 12～13m 程度の範囲に留まります。

平成 20 年度の発掘調査では、奈良・平安時代の土坑 7 基、溝 1 条、ピット 10 基を検出しました。また遺物包含層から弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世にかけての土器・須恵器(すえき)・陶器類の破片が出土しています。いずれも細片ではありますが、当時の久野地区に居た人々の貴重な痕跡の一つとして、今後の出土品等整理作業において様々な分析を行う予定です。調査地点で見出す事の出来た土層の堆積状況や土層観察による情報、及び土壌中に含まれる火山灰や花粉等の同定・分析結果と併せて比較・検討



▲調査地点及び近景



▲調査地点全景(奈良・平安時代遺構群)

するなど、遺跡の実態解明のためのアプローチを今後も続けてまいります。

なお調査地点周辺では、過去に「久野下馬下(くのげばした)遺跡」として四地点にわたる発掘調査等を行っており、主として古墳時代中期の石組遺構や大量の土器・木製品が見つかっています。これらの調査事例は低地における水辺の祭祀行為の一種ではないかと考えられてきました。これらの事例では、今回の調査地とは2～3m程度の比高差があり、地形上は低湿地に含まれます。遺跡としての性質も含めて、両者の相違点が非常に明瞭に認められるという意味では、一括して良好な資料として評価し得るものと考えられます。



▲久野下馬道上遺跡 基本土層



▲参考・三ツ俣遺跡F地区
石組井戸(古墳時代)